

第2回萩小学校複式編制回避検討委員会・議事概要

開催日 令和5年2月2日（木曜） 午後7時～午後8時30分

場所 萩地区市民館 1階集会室

参加者 検討委員会 12名

事務局 4名

1 議題

(1) アンケート調査の実施について

[事務局] 資料1（萩小学校における複式編制の回避への取組に関するアンケート調査方法について（案））に基づき説明

(資料1：アンケート（案）概要)

1 調査の目的について

- ・【萩小学校において、令和10年度から複式編制（学級）が発生する見込みであることから、「豊川市立小中学校の規模に関する基本方針（平成31年3月策定）」に基づき、複式編制（学級）を回避する取り組みを検討するために設置した、「豊川市立萩小学校複式編制回避検討委員会」で検討を進めるにあたり、萩小学校の保護者や萩小学校区の地域住民の皆様が、複式編制（学級）回避への取り組みについて、どのように考えているかお伺いしたいと思い、アンケート調査を実施するもの】とした。
- ・また、記載したように「なお、アンケート調査は個人での回答をお願いするもので、1世帯当たり1回答と限りません。」とし、できるだけ大勢の方から、ご意見をいただきたいと考えている。

2 アンケートの対象者について

- ・アンケート調査は、保護者や地域住民の皆様をお願いする「(1) 一般用」と、子どもたちをお願いする「(2) 児童生徒用」に分けて、違う内容の質問をしたいと考えている。
- ・「(1) 一般用」の対象者として、「萩小学校の保護者」及び「萩小学校区の地域住民（15歳以上（中学生は除く））」としている。保護者を萩小学校に限った理由として、

萩保育園の保護者も加えた場合、萩地区以外から通っている子どもの保護者が含まれてしまうから。また、対象を「萩小学校区の地域住民」とすれば、萩小学校の保護者もこの中に含まれると考えられるが、萩地区以外から萩小学校に通っている子どもが何人かいると伺っているため、このような範囲で「(1) 一般用」とした。この一般用の対象人数としては、萩に住民票がある方が1,394名（令和4年度3月末時点）となり、そこから中学生以下を除いたり、萩小学校区以外から通う子どもの保護者を加えたりすると、実際には1,300名弱になるのではないかと想定している。

- ・「(2) 児童生徒用」の対象者として、萩小学校の5・6年生と、萩小学校を卒業した音羽中学校の生徒とした。対象者の人数については、来年度の5・6年生17人と、令和2から4年度に萩小学校を卒業した42人の合計59人が対象者になると思うが、転校や卒業生の中で音羽中学校に入学しなかった生徒などがいて、若干の違いはあるかもしれない。

3 アンケートの配布方法について

- ・「(1) 一般用」は、町内会を通じて「広報とよかわ」と一緒に各家庭に配布いただくとともに、萩地区市民館に置かしていただきたいと考えている。なお、萩地区以外から萩小学校に通っている子どもの保護者や、町内会に加入していない世帯への配布をどうするかという問題がある。保護者には、子どもを通じて渡すことで対応可能だと思うが、町内会未加入世帯に対しては配布方法が難しいのかもしれない。
- ・「(2) 児童生徒用」については、学校からノートパソコンやタブレットを、児童生徒1人ひとりに貸与しているので、その端末にデータを配信して、回答をお願いしたいと考えている。

4 アンケートの回収方法について

- ・「(1) 一般用」は、紙ベースとWEB回答の2つの方式で集計をしたいと考えている。紙ベースで回答される方用に、町内会に配布をお願いする調査用紙と合わせて返信用封筒も同封する予定。それを教育委員会に郵送いただくか、地区市民館に回収箱を設置させていただいて、そちらに投函いただくことを想定している。また、あいち電子申請・届出システムで回答ができるようにする予定なので、そのURLやQRコードを調査用紙に掲載し、スマホ等で読み取っていただきながらWEB回答いただくこととなる。
- ・「(2) 児童生徒用」については、貸与した端末からの回答となるので、データの集計ができる。

5 調査時期及び期間について

- ・調査時期を令和5年5月の1か月間としたいと考えている。
- ・なお、5月号広報を市から町内会に配布する予定日が令和5年4月28日（金）なので、それにあわせて調査表紙も配布いただくと、5月初めには地域住民の手元に

届くこととなる。

6 調査結果報告について

- ・5月末までに回答いただいたものを集計し、その結果を8月頃までには報告させていただき、今後の参考にしていきたいと考えている。

7 具体的なアンケート項目について

(1) 一般用アンケート（紙ベース、WEB回答のどちらか）

- ・問1から問4は、回答をされる方についての質問。問1で、回答される方の年齢をお尋ねし、問2で、萩小学校区に暮らして何年かを選択していただく。次の問3では、萩小学校の卒業生か、卒業生ではないのかをお尋ねし、問4で、世帯に中学生以下の子どもがいるのか、いないのかを選択していただく。回答される方について、個人を特定することはしないが、年齢や萩小学校の卒業生かどうか、また、家族に中学生以下の子どもがいるかなどによって、その後の調査への回答の違いや、傾向などが分かればと考えている。
- ・続く問5では、過去1年間で萩小学校に行った頻度を伺い、次の問6でどのような理由で行ったかを選択いただく。理由として想定される主だったものを選択肢として用意しているが、選択肢にない場合もその他として具体的に記入いただけるように考えている。
- ・問7では、萩小学校がこれまで地域で担ってきた役割として、重要だと考えるものを、選択肢から3つまで選んでいただく。
- ・次の問8では、小学校の人数について、今後の見込みも含めて学年ごとに掲載をしたうえで、その人数で学んでいくことが適当か、適当でないかをお尋ねし、「適当である」を選択した方には、問9でその理由を、「適当でない」を選択した方には問10でその理由をそれぞれお尋ねする。
- ・問11では、令和10年度に3・4年生が複式編制になる見込みであること、そしてそれを回避する取り組みを検討するにあたり、何を重視するかを3つまで選択していただくこととしている。この質問の結果により、保護者や地域の方が、何を重視しているかということが分かるのではないかと思う。
- ・問12では、具体的に複式編制を回避する取り組みとして、どの方法が良いかをお尋ねし、次の問13で、いつから行うのが良いかをお尋ねしている。この結果によって、どのような取組にするかを決定する訳ではないが、今後の検討を進めるうえで、ひとつの判断材料になると考えている。
- ・問14では、複式編制を回避する取組についての意見を自由に記述いただく。また、それ以外の要望等については、最後の問15で、記述していただくとしている。
- ・また本日の資料には、事務局案としては採用しなかったが、検討した調査項目も参考に掲載させていただいた（時間の都合上、説明は割愛）。

(2) 児童生徒用（端末から WEB 回答）

- ・問1で、小学生か中学生を確認する。なお、児童生徒用も個人の特定はしない。
- ・問2は、萩小学校の1学年1クラスについて、どのように考えるかの質問。
- ・続く問3は、1クラスの人数として、どのくらいが良いかの質問。
- ・問4では、人数が少ないことで「いいな」と感じる点、問5では、「よくないな」と感じる点をお尋ねし、小規模の学校に通っていることで感じていること、また、中学生には、通っていた時に感じていたことを聞きたいと考えている。
- ・次の問6では、クラスの人数を増やす方法として、どうしたらよいと思うかの質問。この質問の結果で、複式編制を回避する取り組みとして、子どもたちがどのように考えるのかが分かるかと思う。
- ・問7では、大きい学校で、大勢の友だちと一緒に学校生活を送りたいと思ったことがあるかを尋ねる。
- ・問8は、中学生のみの質問。音羽中学校に進学したことで、長沢小や赤坂小から進学する生徒と一緒に、学校の人数が増える。同学年の人数も多くなったことで感じる点について質問するもの。
- ・最後の問9では、一般用と同様、何か意見等があれば自由記述いただく。
- ・児童生徒用についても、一般用と同じように、検討したものの採用しなかった調査項目を掲載させていただいた（時間の都合上、説明は割愛）。

(以下質疑応答等)

【委員長】 先ほど、B委員とI委員のそれぞれから、アンケート調査に関する提案書を提出いただいたが、この場で両提案に対する意見交換は難しいと思う。3月までにもう1度委員会を開催したいと考えるので、各自、読んだうえで話し合うのが良いのではないか。

なお、(I委員の提案書にある)「1 検討委員会の基本方針」の“萩小学校を存続する方向で、方策を考えていく”というのは根本的な部分であり、今、まさにそのことを協議している段階。市民館だよりなどで地域の方々に周知しながら、考えていくものだと思う。

せっくなので、何か補足はあるか。

【I委員】 前回の会議は家庭の都合で参加できず、なかなか思いを伝えられなかった。会議時間も限られているので、書面として用意させていただいた。

「1 検討委員会の基本方針」の記載については、これだけ読まれると疑問に思われてしまうかもしれないが、自分なりに前回の議事録を読ませていただいたときに、“萩小がなくなってしまうのは寂しい”という意見が多かったと感じた。私としても、一人の保護者として、廃校ありきではなく、萩小を残

していくためにどうしたら良いかという検討を是非していただきたいと考えている。もちろんそうでない考えの方もいると思うが、もし、この場で検討委員会としてこの思いに賛成いただけるのであれば、そのような考えとしてまとまっていければ良いと思い記載させていただいた。

【委員長】 とてもしっかり勉強していただいている。(今、お話しいただいたことについては)複式編制を回避するための4つの選択肢といったものを地域の皆さんに示し、アンケートをとりながら考えていくことだと思うので、(今は結論を出すことはせず)貴重なご意見として整理させていただく。
事務局からアンケートについての説明があったが、項目ごとに意見交換ができればと思う。例えば、「2 調査対象者」に関連して、事務局から補足等あるか。

[事務局] なるべく多くの方がアンケートの対象となるようにと考えている。また、7月の説明会において、“子どもたちの意見も聞いたらどうか”という提案をいただいたこともあり、児童生徒用を別に用意した(高校生以上は一般向けアンケートにて回答いただければ良いと考えている)。

【H委員】 「3 調査用紙の配布方法」について。複式編制の当事者となるのは、現在、保育園に通っているなどの未就学児の世代。先ほど、萩保育園には萩地区以外からの通園者がいるからアンケート配布の対象外にすると話があったが、最も重要だと思われる当事者世代の保護者の意見はどのようなかたちで吸い上げるのか。

[事務局] 萩地区にお住まいであれば、萩保育園の保護者へは、「(1) 一般用」として町内会を通じて各世帯に配布される地域住民向けのアンケートで回答いただくこととなる。

【H委員】 郵送で配布するのか。

[事務局] 広報とよかわが町内会を通じて配布されていると思うが、それと一緒に配布いただくことを想定している。

【H委員】 前回の会議でも話したが、(諸事情により)回覧板が届かない家庭もある。萩小学校と同様に萩保育園でも、子どもを通じて配布いただくのが良いかもしれない。

[事務局] 萩小学校で配布するのは、あくまで萩地区以外から通学する子どもの保護者であり、萩地区にお住いの(萩小学校及び萩保育園の)保護者には、「(1) 一般用」として各世帯に配布する調査用紙に回答いただく想定としている。

世帯配布となるが、1世帯1回答ではなく、個人ごとの回答として受け付けるため、回答用紙を複数用意するとともに、インターネットでの回答もできるようにと考えている。

【H委員】 市民館だより等でもPRするが、実際のアンケート調査自体には、「確実に若い世代にも届くようにお願いします」などの一文を記載するなどの対応もあったほうが良いかもしれない。

〔事務局〕 保育園や学校を通じて、アンケート調査を行う旨、PRすることが可能かもしれない。できるだけ多くの方に回答をいただければと考えている。

【B委員】 萩小学校や萩保育園でも「(1)一般用」を配布したらどうか。諸事情により町内会から脱退した保護者もいる。そのような場合、当事者世代の親であるにもかかわらずアンケート調査が届かない事態となる。それは防ぐべきなのではないか。
今回のアンケートで心配なのは、重複回答である。紙のほかにインターネットでも回答可能としてしまうと、同一人物による複数回答の可能性が出てくるのではないか。

〔事務局〕 ひとり1回答という文章は当然いれる予定。

ただ、紙ベースでの受付のみに絞ったとしても、回答用紙をコピーすれば何枚も回答することは可能。重複回答を防ぐためには、回答者の氏名を記入いただき、回答者を特定するしかない。

仮に記名式アンケートにしたとしても、結果を報告する際には個人が特定できるようなことはしないが、事務局が回答者を知り得てしまうことを心配して、アンケートの回答率が低くなることや、本音が集まらなくなってしまうのではないかという心配があった。

そこで重複する可能性はあるものの、性善説にのっとり無記名式アンケートとした。

萩地区以外から萩小学校に通われている家庭については、学校を通じて配布いただくことになるのかと思う。

【B委員】 記名式アンケートにすると、回答が集まらないかもしれない。

【委員長】 性善説にのっとり無記名式で行うしかない。
「4 回答の回収方法」に関連して何かあるか。

【副委員長】 アンケートの回収方法はこれで良いと思う。
「1 調査の目的」について。そもそも、このアンケートをどうして実施するのか、これを皆さんにわかりやすくお知らせすることが重要。今、記載のあ

る文章を何度も読んだが、もう少し分かりやすくできたら良い。これまでも“複式編制回避”という表現で町内会にお知らせしているが、“複式編制を回避する”という表現を、皆が正しく理解できているのかが不安。アンケート実施までに、もう少し何とかしたい。近所の方にも萩小学校が廃校になると思っている方がいる。まだ決まっていないと伝えたが、そういった状況である。

【I 委員】 この“複式編制を回避する”という表現が、会議に出席していないと非常にわかりづらく、誤解を招きやすいのだと思う。私自身も議事録や資料等を見て、ようやく理解した。
前回の議事録を見ると、「現段階において複式編制回避イコール廃校ではない」と事務局から発言があった。そういったことから、「廃校」という言葉が使われていないのだと思うが、「廃校」という言葉の意味としては、統廃合や閉校により学校の経営をやめることであるし、これは萩小学校を廃止するかどうかの検討である。「廃校」や「廃止」、またそれに代わる言葉でも良いが、もっとわかりやすく伝わる表現にすべきだ。これは、前回の会議でも同じような意見が出ていたようだが、この課題の内容が、より皆にわかりやすい表現が良いと思う。

【B 委員】 （I 委員の提案書における）「1 検討委員会の基本方針」での“萩小学校を存続させる方向で方策を考えていく”ということについて、これを検討委員会の中でしっかり地固めできればよい。
最も良いのは、萩小学校がそのまま残ることだと皆が思っていると思う。ただ、それがダメになるのであればどうしようか、それをしっかり共有できないと、どんな結果になるにせよ、将来的に「そんなはずではなかった」、「聞いてなかった」という風潮になるのではないか。
先ほど次回以降持越しになってしまったが、（I 委員の提案書における）「1 検討委員会の基本方針」での“萩小学校を存続させる方向で方策を考えていく”ということ、検討委員会の意見としてまとめ、今後のアンケート結果が別の結果になったのであれば、それを踏まえて、再度、検討委員会として、今後の方向性を決めていくのが良いのではないか。
せっかく I 委員が提案されたので、（検討委員会としては萩小学校を存続させる方向で方策を考えていく可否について）いったんこの場で決めたらどうか。
この時点で、検討委員会としての方向性をいったん決めておくことは、委員の皆さんのやりがいにもつながるのではないかと思う。皆さんの意見を伺いたい。

【G 委員】 （この場で決めることなく）これから検討委員会としての方向性を決めるためにアンケートを行うのだと思っている。そのためには、先ほど話があ

ったとおりアンケートの趣旨をしっかりと伝えることが重要。

【J 委員】 個人的には、萩小学校がずっと残って欲しい。通学する児童がもっと増えるような施策があれば嬉しい。

【副委員長】 事務局から本日配布された A3 資料（萩小学校における複式編制（2 学年で 1 クラス）回避について）の中で、「1 はじめに」として萩小学校の状況が記載されている。アンケートを行う前に、町内会として一度、予告文章を作りたいと思う。ここに記載のある内容を使わせてもらい、萩小学校の現在の状況と今後の見通しを、きちんと共有したうえで、アンケートを行いたいと思う。実情を町民の皆さんとしっかり共有したうえで、4 つの選択肢の中から方向性を決めていく必要がある。

【事務局】 この A3 資料は、アンケートをする際にこういった資料もあったほうが良いのではないかとということで、事務局として仮に作成したもの。
地域の皆様への周知用として、「こんなイメージで作って」と依頼していたのであれば、可能な限り事務局で作成させていただく。

【B 委員】 アンケート実施前に、周知のための説明会を開催したほうが良いのではないかと思う。現在、アンケート実施予定が 5 月からとなっているが、これにこだわることなく、事前周知のための説明会を開催すべきだと思う。

【事務局】 検討委員会として、そのような依頼をいただければ対応させていただく。

【F 委員】 そもそも話だが、この検討委員会の目的は、萩小学校を存続させるためにはどうすれば良いのかを議論するためだと理解していた。ところが、豊川市の方針として複式編制はやらないということだ。複式編制をやらないというのは市内どこの学校でも同じだと思うが、現在、その対象に萩小学校がなっている。もしかしたら、萩小学校だけが複式編制をやらないのではないかと思われてしまう方もいるかもしれない。
豊川市が複式編制をやらないのであれば、例え 1 人の学級になったとしても、専属で先生をつければ単式学級として成立する話。それが出来ないのであれば、どうして出来ないのかを説明していただかないと住民の理解は得られないのではないか。萩地区の住民で、萩小学校をなくして良いと考える人などいないと思う。もしなくなってしまうのであれば、この検討委員会をやる意味がないのではないか。

【委員長】 豊川市では複式編制の学校を作らないとのこと。萩小学校でも複式編制はないという前提で、これから行うアンケートで、住民の意向を確認していきたいということだ。

【F 委員】 萩小学校に限らず、赤坂小や長沢小もいずれ同じような状況になるのだと思う。そうなのであれば、「音羽地区では小中一貫の学校を立ち上げましょう」、そういった意見が今回のアンケートで出た場合、実現可能なのか。選択肢のひとつとして説明があったが、現実的にあり得るのか。どれだけお金がかかろうともやってくれるのか。

〔事務局〕 豊川市の方針としてそのような決定がなされれば、実現する。

【F 委員】 予算がないから出来ませんという回答が返ってくることはないのか。

〔事務局〕 豊川市の方針の中で選択肢として掲げている以上、実現性がゼロの選択肢はないし、小中一貫校ができる可能性は残っている。
ただ、今ある建物を修繕することで対応可能であったりするのであれば、予算や時期の制約もあるので、既存校舎を修繕しながら小中一貫校として活用するという事も有り得る。

【F 委員】 小中一貫校が絶対出来ないというわけではないということか。

〔事務局〕 そうである。ただし、選択肢は4つあって、その中には統廃合も含まれている。統廃合も選択肢のひとつだということは、必ずしも萩小学校を残すと決まっているわけではないことも理解いただきたい。

【F 委員】 統廃合ということは廃校ではないか。

〔事務局〕 統廃合も選択肢に含まれるということは、将来的な廃校も有り得るということ。存続することを前提にこの会議を立ち上げているわけではない。小中一貫校も有り得るし、廃校も有り得る、通学区域の見直しも有り得るということ。

【F 委員】 赤坂小学校に通っている子どもの一部が萩小学校に通ってくれるのであれば、萩小学校が存続する可能性も有り得るということか。

〔事務局〕 可能性としては有り得る。ただし、どの選択肢を選んだとしても様々な課題があって、通学区域の見直しを検討する際は、赤坂小学校の校区を分断することになるので、町内会などをどうするかなどのことも考えていかなければならない。

【F 委員】 赤坂小学校の子どもたちが、このまま赤坂小学校に行きたいと言った場合、実現しないのではないか。廃校という言葉を使っていないだけではないか。

〔事務局〕 4つの選択肢がある以上、絶対存続させるというわけではない。ただし、存

続させないという方針を行政が一方的に決めることはせず、皆さんと一緒に検討していくためにこの会が立ち上がったということも理解いただきたい。

【F 委員】 平成26年度における教育委員会の話の進め方が大失敗だった。萩小学校を廃校とする前提で話を持ってきて、萩地区の住民もこれで萩小学校がなくなってしまうのだと思った。そういった失敗を再度しないように、(あまり萩地区の住民に知らさないで) 進めようとしている気がしてならない。

[事務局] (萩地区の住民が) 知らなかったとならないように、この検討委員会を立ち上げていただいた。

【委員長】 前回(平成26年度)のときは、小学校(及び保育園)の保護者に対するアンケートであったこともあり、私自身このような動きを知らなかった。それもあって、検討委員会については、地区市民館だより等でお知らせをしている。前は本当に何も知らなかった。そうならないように、今回は地域の皆さんにお知らせしながら、やっていきたい。

【B 委員】 (豊川市立小中学校の規模に関する) 基本方針は、諮問委員会(事務局補足: 豊川市の未来を拓く教育推進懇談会のことだと思われる)を立ち上げてやった。その諮問委員会には、萩地区の人が誰も入っていなかった。萩地区の人が誰も入っていなかったから、豊川市の複式学級となる目安について、国(文科省)や愛知県の基準(学級編制の基準)そのままに、豊川市基準(豊川市立小中学校の規模に関する基本方針)の案が作られた。その基本方針案については、策定前に広報等を通じて市民向けにパブリックコメントで意見の募集が行われたが、(基本方針を)見た人は何のことか分からなかったことや、自分の住んでいる地区には関係ない、あるいは市全体で見たときには、そのような小さい学校は経費的に仕方ないのではないかという流れになってしまったのだと思う。

そういったこともあって、I委員の提案書にあるように、“萩小学校を存続させる方向で方策を考えていく”ということについて、委員会としてまとめたと思った。アンケートで別の結果が出たのであれば、それを踏まえて再度、考えれば良いのではないかと思う。

4つの選択肢というが、この中には子どもを増やす方法が含まれていない。子どもを増やす方法がないのであれば、廃校するしかなく、皆やる気がなくなってしまうのではないか。

【C 委員】 今回初めて参加させていただいた。アンケート対象となっている萩地区住民約1,400人。きっとそれぞれに意見があるものの、結果的には○か×になってしまって、個々の意見を全て聞き入れてもらえるのは難しいのだと思う。もしかしたら多数決みたいな決め方になってしまうのかもしれない。

だから、丁寧な説明が必要だ。結果が出たときに全員が納得するのは難しいかもしれないが、そのためにも事前に丁寧な説明をしておくことが重要だと思う。

この会議に出席されている皆さんは萩小学校を残したいという意見がほとんどだと思うが、私としては正直合併しても良いのかなと思っている。それは子どものためだ。子どものことを考えると、もっと大きなところで、大人数と一緒に学んで欲しいと思っている。

このように色々な意見があると思う。そのためにも諸般の意見を聞いていただける場所があれば良いと思う。

【E委員】 私は萩地区に長く住んでいるわけではないので、少数の意見となってしまうのかもしれないが、このアンケート案を見たときに、事務局は統合に向けた意見としてまとめたのではないかと感じた。

この4つの選択肢の並び順も①に学校統合があるし、先ほど他の委員が言われたように、①は萩の子どもの人数を増やすという選択肢があっても良いのだと思う。(今回のアンケート案には採用されなかったようだが) その他に検討した調査項目としても、設問文の中で“統合の場合は”、“統合の場合は”と並んで記載があるのを見ると、どうしても統合に向けて動いているのかなと思ってしまう。

自分の子どもが萩小学校の3年生だが、この「(2) 児童生徒用」アンケートを見せたときにスムーズに回答できたので、対象年齢をもう少し広くしてもいいのかもしれない。アンケート内容を少し変える必要があるかもしれないし、それで増える回答数は微々たるものかもしれないが、特に、今の1年生が5名だけで、その学年は本当に少ないので生の声が聞けるかもしれない。私の3年生の子どもは、今の状態にとっても満足していて、クラスメイトの人数が少ないとも感じていないようだ。楽しい、楽しいと言っているし、少なくとも寂しいという感情はないようだ。だから、「(2) 児童生徒用」の対象人数も広くしたほうが良いのかなと思った。

【H委員】 この「(2) 児童生徒用」アンケートの問2（1学年1クラスについてどう思うか）という回答の①が“1クラスしかないのでさみしい”となっている。他の委員も言われたとおり、子どもたちはとても楽しいと言っているので、一番はじめの選択肢は“さみしい”ではなく、“十分だ”などの前向きな回答から始まると良い。

私は低学年と高学年にそれぞれ子どもがいる。高学年の子どもは、委員会や友達関係など色々大変なことがあるので、大きな学校も憧れると言っていた。一方で、低学年の子どもは、毎日楽しいし、先生ともおしゃべりできるので、大きい学校の子の意見（先生とおしゃべりすることや、鬼ごっこする機会なんてない）を聞くと、高学年と低学年では意見が異なるのかもしれない

い。そのため、アンケート対象を5、6年生に絞らずに、低学年の子にも広げるといった意見に同意する。小学校1年生の子も家に持ち帰り、家の人がとなりで一緒に回答することも可能だと思うし、アンケートも難しい設問はないので出来るのではないかと思う。保育園児も対象にするのも良いかもしれない。

【委員長】 時間も限られているので、設問ひとつひとつをこの場で検証するのは難しい。期日を絞るので、具体的な修正案をそれぞれ申し出ただけだと思う。また、先ほど話のあった事前説明会を含めた今後の全体的なスケジュールについては、事務局（教育委員会）を交えながら検討したいと思う。2月下旬か3月上旬に、3回目の検討委員会を開催したい。そこで今後のスケジュール案もお示しできれば思うのでよろしくお願ひしたい。

【I 委員】 今後の委員会の開催方法について提案をしたい。市民館だよりや回覧板等で情報発信をしていただいているが、そこに書かれた文章を読むだけでなく、実際に委員会の様子を見聞きしてもらうことができれば、より良いのではないかと思う。そこで、今後の会議開催にあたっては、自由席を設け、関心のある方が来られるようにすれば良いと思うが可能か。そうすれば、より多くの方に関心を持っていただけるのではないかと思う。現在、「子どもは卒業した」という世帯の方にとっては、学校は地域にはあるけれど、自分たちにはあまり関係ないと感じていて、深く考えずに回答される可能性もある。そのような方々に関心をもってもらうため、また反対に、保護者たちはこの問題に非常に関心を持っているため、地域の皆さんに委員の皆さんそれぞれの思いなどを直接見聞きしてもらうことが大切なのではないかと思う。

【事務局】 代表者会という形で運営をしているので、会議に来られた方が自由に発言できるようにすると収拾がつかなくなってしまう。そのため、傍聴のみで発言なしということであれば可能かと思う。

【I 委員】 保護者たちは、それくらいの気持ちであるということを確認いただきたい。現在、さくらんぼの会の代表をしているが、当事者世代であるにも関わらず回覧板がまわってこない家庭もあり、不安感がとても強い。提案書に書かせてもらったが、「開かれた検討の場」であって欲しい。

【A 委員】 「萩小学校が続いて欲しい」、「萩小学校を地域コミュニティの核としてこれからも活用したい」、この気持ちがブレている人は、私も含めてこの中にはいないと思う。しかしながら、「子どものためにはどうすればよいか」となると、それぞれで意見が異なるのだと思う。子どものためのベストな選択は、すぐには見つからないのかもしれない。多数決ではないが、これから大きな流れを作っていかなければならないとな

った時、先ほど委員が「自分はここにいる皆さんとは考え方が異なるのだけれど」と言われたように、そういった率直な声を出することができる場としてアンケートを実施することになったのだと認識した。先ほど、「アンケートの趣旨」や「複式編制とは何か」をもっと分かりやすくしたほうが良いと意見があったが、おっしゃるとおりだと思う。豊川市では複式編制はない、そして萩小学校では複式編制になる見込みになった今、この手立ての中から選んでいかなければならない、その理解が地域の皆様に行き渡ることが大切なのだと改めて思った。

他の委員2名からは、「子どもたちがとても楽しく学校に通っている」とおっしゃっていただいた。大変ありがたいことで、そういった子どもたちがいて、とても幸せだ。ただ、少し危惧するのは、H委員が言われた“上のお子さん（高学年）は大きな学校にも憧れている”ということ。恐らくは、その学年の子どもたちは、今年の野外活動を他の学校と共同で実施したことがきっかけではないかと思う。他の学校の子ともと一緒に大勢の人数でスポーツをしたり、大勢の人数で行事をやったりということを、そこで初めて体験をした。視野が広がり、比較対象ができたので、子どもなりに考えてそのような意見に至ったのだと思う。子どもの意見は尊重すべきだが、生活体験のなかで比較対象がない子どもにアンケートをとった場合、狭い視野でのアンケート回答になってしまう恐れがある。対象年齢を低学年に広げるのは良いことだと思うが、そういった危険性があることを認識したうえでこれから議論していただければと思う。

選択肢が4つ。どの決断をしたとしても準備する時間が必要である。相当な時間が必要な選択肢ばかりだ。仮に複式編制がやはり良い、萩小学校は複式編制をやるのだとなったとしても、そもそも複式編制を指導する教員の育成にかなり時間がかかる。豊川市の方針は複式編制を回避することなので、4つの選択肢から選んだとしても、施設、教員の準備、その他もろもろ、地域の皆さんの理解を得ることと並行して、学校側も準備していかなければならないし、どの選択肢に対しても、膨大な労力、時間がかかる。そのため、この4つの選択肢の中から選ばなければならないリミット、これがとても気になる。具体的に〇年生まれの子どもたちから開始するとか、そういったことではなく、たまたまその学年に生まれた子が割を食わないためにも、いつまでに決めなければならないのかということ。事務局にお願いしたいのは、住民の方に説明される際には、その趣旨などだけではなく、今後の作業工程も示していただければと思う。

繰り返しとなるが、子どもたちのことを考えると、たまたまその学年に生まれた子どもが割を食うということは避けなければならない。子どもの手立てをどうするかという考え方については色々な思いがあるだろうが、全ての意見を聞くことはできないと思う。先ほどG委員も言われていたが、そのため

に検討委員会があって、そのためにアンケートを行う、私もそう思う。

【B委員】 今の話に出た“工程表”については、I委員の提案書においても2の④「令和10年4月に萩小が複式学級になり・・・時期明示の工程ごとの表を明細に提示する」として記載している。色々な段取りが分かるように作成をお願いしたい。

アンケートについては自分も実施した経験がある。例えば、設問や選択肢の順番だったり、色々工夫して回答をある程度誘導したりすることもできる。私からの提案書については、そういった点について書かせていただいたが、どこで議論するのか。

【委員長】 先ほど提出いただいたばかりなので、2月10日までに受け付ける他の方からの提案と含めて、また検討することになると思う。

以上